

平成32(2020)年度

北海道・札幌市公立学校教員採用候補者選考検査

第 2 次 検 査

実 技 検 査 の 進 め 方

No.		氏 名	
-----	--	-----	--

北 海 道 教 育 委 員 会

札 幌 市 教 育 委 員 会

音 楽 実 技 検 査

検査の実施方法

小学校、特別支援学校小学部

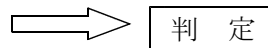
1 検査方法

検査名	検査方法
ピアノ伴奏付き歌唱	・小学校歌唱共通教材の中から検査時に検査員から示された曲の主旋律に簡単な伴奏を付けて歌いながら演奏する。

2 検査の進め方

検査は、ピアノ伴奏付き歌唱の方法により実施することとし、演奏途中でつまづきがあった場合は、その箇所から引き続き演奏させ、最初からのやり直しは認めない旨受検者に告げてから実施する。

- (1) 検査員は受検者に課題曲（1曲）を示し、主旋律の楽譜を見ながら簡単な伴奏を付けて歌いながら演奏することを告げる。
- (2) 若干の準備時間を与える。（1分程度）
ピアノを使って和音、伴奏等の練習をしてもよいことを受検者に告げる。
- (3) 主旋律に歌詞を付けて歌いながらピアノ演奏させる。



1 検査方法

検査名	検査方法
①ピアノ演奏	・検査員から示された中学校歌唱教材程度の曲の主旋律に簡単な伴奏を付けて演奏する。その演奏後に改めて検査員が指定する調に移調し、主旋律に簡単な伴奏を付けて演奏する。
②初見視唱	・検査員から示された16小節程度の旋律を初見視唱する。

2 検査の進め方

検査は、次の二通りの方法により実施することとし、演奏途中でつまずきがあった場合は、その箇所から引き続き演奏させ、最初からのやり直しは認めない旨受検者に告げてから実施する。

(1) ピアノ演奏

- ① 検査員は受検者に対して課題曲（1曲）を示し、主旋律の楽譜を見ながら伴奏を付けて演奏すること、さらに、その演奏後には移調して演奏することも告げる。
ただし、この時点では移調先は示さないこと。
- ② 準備時間を与える。（3分程度）
ピアノを使って和音、伴奏等の練習をしてもよいことを受検者に告げる。
- ③ 原調のまま、伴奏を付けて演奏させる。
- ④ 検査員は受検者に対して移調先を示し、先に演奏した曲に伴奏を付けて演奏するよう告げる。
- ⑤ 移調し、伴奏を付けて演奏させる。

⇒ 判 定

(2) 初見視唱

- ① 検査員が受検者に楽譜を示し、目を通させる。（1分程度）
- ② 階名唱は、移動ド唱法、固定ド唱法のいずれでもよいことを告げる。
- ③ 調性の希望（音域の違いによる高低）を受検者から聞き、検査員がはじめの和音を示す。
- ④ 階名唱をさせる。

⇒ 判 定

英 語 実 技 検 査

英語（小学校、特別支援学校小学部）

検査の実施方法

1 検査方法

検査は、放送設備を利用した英語のリスニング検査とし、10問出題する。

2 検査の進め方

- (1) 検査員は、問題用紙、解答用紙を受検者に配付する。
- (2) 受検者には、放送により読み上げられたリスニング検査問題に解答させる。
- (3) 検査終了後、検査員は問題用紙、解答用紙を回収する。

英語（中学校、高等学校、特別支援学校 中・高等部）

検査の実施方法

1 検査方法

検査は「自由会話」及び「英問英答」により実施する。

2 検査の進め方

検査は検査室への入室時から英語で進める。

(1) 自由会話

日常的なことについて自由に会話をする。

(2) 英問英答

① 検査員が受検者に英文課題1つを示し、黙読させる（2分間）。

② 黙読させた後英文を音読させ、検査員は英文の内容に関する質問をし、受検者に答えさせる。

⇒ 判定

体 育 実 技 検 査

検査の実施方法

- 1 小学校及び特別支援学校小学部の受検者には、水泳の実技検査を実施する。
- 2 中学校・高等学校（保健体育）及び特別支援学校中学部・高等部（保健体育）の受検者には、マット運動、球技（バスケットボール及びバレーボール）、武道（柔道又は剣道）及び水泳の実技検査を実施する。
- 3 各検査は、受付名簿に従い、原則として、男女別を実施する。

検査内容

小学校、特別支援学校小学部

- 1 水泳
25m（泳法はクロール、平泳ぎ、背泳のうち1種類）、実施回数1回
※スタートは水中から行う（飛び込みは禁止とする。）
※速度は問わない。全員がゴールに到達するか、又は途中で中止するまで検査を継続する。

保健体育（中学校、高等学校、特別支援学校 中・高等部）

- 1 マット運動
 - ・倒立（3秒間静止）、実施回数1回
 - ・連続技（前転、後転、側方倒立回転等）、実施回数1回
- 2 バスケットボール
 - ・ドリブル及びシュート、実施回数1回
- 3 バレーボール
 - ・オーバーハンドとアンダーハンドを交互に使った連続直上トス（30秒間）、実施回数1回
- 4 水 泳
 - ・50m（泳法はクロール）、実施回数1回
※スタートは水中から行う（飛び込みは禁止とする。）
※速度は問わない。全員がゴールに到達するか、又は途中で中止するまで検査を継続する。
- 5 柔 道
 - ・指定した相手と「取」と「受」を交代しながら、指定した二つの投げ技及び受け身を行う。
実施回数各技1回（打ち込み4回の後、5回目に投げる。）
- 6 剣 道
 - ・指定した相手と打つ側と打たせる側を交代しながら、指定した打ち込みを行う。
実施回数1回

具体的実施方法

1 水 泳

- (1) 受付、検査方法の説明
 - (2) プールサイドでの準備運動（5分程度）
 - (3) 練習（1分程度）
 - (4) 実技検査
- ※ プールは長さ25m、水深1m以上とする。

2 マット運動

- (1) 受付、検査方法の説明
 - (2) 練習（1回）
 - (3) 実技検査
- ※ マットは長さ9m以上とし、教育用マット大型（長さ6m、幅1.2m）と中型（長さ3m、幅1.2m）又は大型（長さ6m、幅1.2m）2枚を組み合わせる。

3 バスケットボール

- (1) 受付、検査方法の説明
 - (2) 練習（1回）
 - (3) 実技検査
- ※ ボールは、男子は一般・大学・高校／男子用（7号球）を、女子は中学校／女子全般用（6号球）を用いる。

4 バレーボール

- (1) 受付、検査方法の説明
 - (2) 練習（1回）
 - (3) 実技検査
- ※ ボールは一般用（5号球）を用いる。
タイマー表示を行う（ゲームタイマー）。

5 柔道

- (1) 受付、検査方法の説明後、係員が組み合う相手を指定する。
 - (2) 組み合う相手と練習を行う。（2分程度。）
 - (3) 実技検査
 - ア 係員の指示により互いに立礼し、係員の合図で組み合う。
 - イ 「取」は指定した投げ技①を行い、「受」は技に応じて受け身をとる。
 - ウ 「取」と「受」を交代し、イと同様に行う。
 - エ 続いて投げ技②をイ、ウと同様に行う。
 - オ 係員の合図で指定の位置に戻り、互いに立礼する。
- ※ 検査は武道場又は畳のある会場を使用するとともに柔道衣を着用する。

6 剣道

- (1) 受付、検査方法の説明後、係員が受付名簿順に二人一組となるペアを指定する。

(2) 指定した二人一組で練習を行う。(2分程度。)

(3) 実技検査

ア 向かい合って立ち、係員の指示で立礼、試合開始時の所作を行う。

イ 打つ側は切り返しを行い、続けて総合打ち込みを行う。

ウ 打つ側と打たせる側を交代し、イと同様に行う。

エ 係員の合図で試合終了時の所作を行い、立礼する。

※ 検査は武道場又は体育館を使用する。

※ 服装はジャージ等とし、剣道着・防具は装着しない。

※ 検査で使用する竹刀は持参する(会場に用意している竹刀を使用することもできる。)